横浜市立万騎が原中学校　学校だより

桐の花

令和５年
３月２４日

校 長　中 村　雅 一
横浜市旭区万騎が原 31　　TEL 045-391-5514　FAX 045-391-5537
URL http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm

自分にとっての『大きな石』

校長　中村　雅一

先日の「第 62 回　卒業証書授与式」において、「大きな石」の話をしました。これは、ある大学教授が学生にした話で、過去に（2018 年 1 月）全校集会でも話したことがあります。式辞で話した内容を以下に掲載、紹介します。

・・・・・(前半部分は、省略)さて、これから新しいステージに向かう君たちに、いくつか思うことを話します。 ここに「大きな壺」に見立てた器があります。そして、大きな石と、たくさんの小さな石があります。この壺、器にまず小さな石だけを入れていきます(大きな石は、そのまま置いておきます)。

○　さて、みなさん、「この壺、器は　満杯ですか？」
「本当に、満杯？」
（机の下から、砂利を取り出し、中に流し込む。器を揺らし小さな石と石の間を砂利で埋めました）
○　では、「この壺、器は満杯ですか？」
「満杯ではない？」「そうだね」(机の下から砂を取り出し、石と砂利の隙間に流し込みました)
○　それでは、「この壺、器は満杯ですか？」
「そうです、まだ満杯ではないですね」
（机の下から水の入ったペットボトル取り出し、壺、器のふちまで、なみなみと水を注ぎます）

さて、このことで、私、校長は何を伝えたいか、わかりますか？
ポイントは、壺一杯に詰め込むことではなく、大きな石の収め方にあります。
　このたとえが私たちに示してくれている真実は、「大きな石を先に入れない限り、それが入る余地は、そのあと、二度とないということ」です。
　ここでいう「大きな石」とは、君たちにとって「一番大切なもの」です。それが、「家族」だという人もいれば、「将来の夢・目標」「勉強」「野球」「友人」「恋人」「仕事」など、人それぞれだと思います。
　でも、それを最初に壺の中、器に入れないと、君たちは、自分にとって一番大切なものに割く「時間」を失い、ひいては、その大切なもの自体を永遠に失うことになる、ということです。
　もちろん、もともと壺に入らない「大きな石」もあるでしょう。悲しいことですが、人生には追い求めても叶わない夢も現実にはあります。しかし、諦めてはいけません。そんな時は、やり方を変えて、つまり、大きな石を砕いて、小さくして、うまいこと壺におさめるのです。あるいは、壺の方を大きくしていくというのは、どうでしょうか。「努力」して、「成長」していくことで、「器」が大きくなり、入らなかった石が入るようになるかもしれません。
　「たとえ話」が長くなりましたが、どうか、これからの未来に向かって、自分にとっての「大きな石」を見つけ、その「大きな石」を壺に収める準備に取りかかってほしいのです。
　これから君たちが新たな一歩を踏み入れていく社会は、日々、私たちの想像をはるかに超える変化をし、様々な困難が待ち受けています。

その変化が激しく、時代の「先」が見えない中で、迷わないために役に立つのは、どこにいても、常に進むべき方角を指す「方位磁石」、つまり、「コンパス」です。どんな変化にも惑わされず、自分の選択や判断に迷うことのない、その「コンパス」を手に入れるために、君たちに必要なことは、常識にとらわれたり、多数意見に流されたりしないで、常に「なぜ」という疑問を持ち、「問い」を立て、「考え続けること」、「学び続けていくこと」です。これからも常に、学び、考え続けながら、皆さんの一人ひとりの「貴重な命」を大切にして、自分の進むべき道を見つけていってください。

「命を大切にする」とは、「時間を上手に扱うこと」です。「命」とは、人間の持っている「時間」のことだからです。決して急いだり、焦ったりする必要はありませんが、自分の時間、つまり、自分の「命」の上手な使い方を考えてください。上手な使い方とは、与えられた命を、時間を　自分のためだけでなく、誰かの幸せのため、社会のために使うこと。これこそが　真の「幸福感」に繋がり、君たちの「大きな石」となるのではないでしょうか。それが、あなたの、君の「ミッション」、つまり「使命」なのだと思います。
「使命」は、命を使う、と書きます。
どうか、自分にとっての「大きな石」とは何か、問い続けていくことを忘れないで、前に進んで行ってください。
それでは、卒業生の皆さん、いよいよ、新たなステージへの「旅立ち」です。
「卒業　おめでとう」　そして、「ありがとう」、「元気でね」、「さようなら」

式辞は以上となりますが、少し古い映画で「ディープインパクト」という映画がありました。映画の終盤、地球最期の日になって、世界中の人たちが「大切なもの」に気づいて、それを抱きしめて、最期の時を待つシーンが印象的です。人は、最期の最期に、ようやく「大きな石」に気づくことがあります。できることならば、それを失ってしまう前に気づきたいです。そして、時間は無限にある訳ではありません。来年度も、万騎中生の一人ひとりが、思い思いに、自分にとっての「大きな石」について考え、自分にとっての「大きな石」を見つけ、「大きな石」に向き合っていくことを願っています。
おわりに、先日亡くなった足立先生が卒業式当日、入院中のベッドから、卒業生と３学年職員に送ってくださったメールの文章を紹介します。
「卒業生に贈ることば　第 62 回卒業証書授与式おめでとうございます。皆さまの今後のご活躍と健康第一を大切にしてください。」
「3年職員へ　おはようございます。･･･さて今日は第 62 回卒業証書授与式ですが3年間、いや義務教育終了の日、お互いに感無量と思います。我々教育の現場の者には何より大事な日と感じます。主役は卒業生徒ですが親も先生方も主役なのが卒業式です。本日先生方の力を結集させて頑張りましょう。　　病棟のなかから」
万騎が原中学校にとって、私たち教職員、生徒にとって、足立先生は「大きな石」であったことを今さらながらに、しみじみと思います。足立成広先生のご冥福をお祈りいたします。

訃報
かねてより入院療養中でありました本校教諭　足立　成広（あだち　しげひろ）が令和５年３月１１日の午前６時 44 分に永眠いたしました。また、１８日に通夜式、１９日に告別式が営まれましたこともあわせて御報告いたします。生前の御厚誼に心より深謝いたします。

『卒業生代表のことば』

三月に入り暖かさは日を追うごとに増し、桜の蕾も春を待ちかねているかのように感じます。この良き日に私達三百二十三名はこの万騎が原中学校を卒業します。

三年前の春、私達は期待を胸に万騎が原中学校の門をくぐりました。周りは他の小学校から来た知らない人ばかりで前日までの期待とは裏腹に不安でいっぱいになりました。教室に入っても皆緊張していて、空気がはりつめているのを感じました。しかし先生が「今は知らない人ばかりで不安しかないだろうと思うけれど、万騎が原中学校は行事や部活動がさかんで、体育祭や桐花祭の合唱が盛り上がるから、すべてのことに皆が全力で取り組み、行事に勝つクラスにしたい」と言ってくださった時、不安は期待へと変わり、やってやるぞ、という気持ちが生まれました。今になって思い返すとこの時の先生の熱い気持ちがこの学年一人ひとりに伝わり、行事に一生懸命に取り組む学年になれたと感じます。

しかし、次の日私達がリュックを背負って登校することはありませんでした。新型コロナ感染症拡大のため二か月の自宅学習になってしまったのです。それを聞いた時今までずっと当たり前だと思っていた学校生活は当たり前ではないということを感じ、学校での友達との会話や皆で学ぶことの楽しさを痛感しました。

体育祭や桐花祭は中止されましたが、後期になってなんとか学年の行事を行うことができました。そして危ぶまれていた八景島シーパラダイスにも行くことができました。小学校とは大きく違い、ほとんどが班別行動で、地図を見ながら班員で協力して目的地に向かうことはとても新鮮で自分たちは中学生なんだな、と感じたことを覚えています。

ようやく中学校生活に慣れてきた頃、私達は二年生になりました。初めての体育祭、全員リレーや、台風の目、大縄跳びで結果が出なかったものの、部活動対抗リレーで先輩方の活躍や体育祭を円滑に運営する姿を見て憧れをいだきました。

そして、桐花祭。自分はパートリーダーとしてパートを引っ張ってきましたがうまくいかず、上に立つことの厳しさを学びました。

東京見学では、冷たい雨が降っていました。一年生の八景島への校外学習ではできなかった、時間を守って臨機応変に行動することができるようになり、自分たちの成長を感じることができました。私達が帰るときとても大きな虹がかかっていました。その虹はどんなに大変なことがあってもそれを乗り越えれば、その先により良い未来が待っているように感じさせる虹でもありました。

翌年私達は最高学年、三年生に進級しました。五月の修学旅行は私達にとって初めての二泊三日の校外学習で今までにないほど楽しみにしていたので、当日は早起きをして飛ぶように家を出ました。

一日目は奈良に行きました。奈良では東大寺に行き、大仏の大きさに圧倒されました。奈良公園では鹿と触れ合い、鹿せんべいをあげて手を舐められたことも楽しい思い出です。

二日目は京都です。清水寺では景観を楽しみ、金閣寺ではその歴史や優美さを感じることができました。

三日目は能見学や座禅を体験したりして日本の文化に触れることができました。もちろん宿ではウノをしたり、ふざけたり、腹を抱えて笑いあったことを覚えています。

様々な行事を体験する中で、わたしは一年生の頃から生徒会本部役員となり、学校全体の役に立ちたいと考えるようになりました。生徒会書記として何をすればいいかわからない私に先輩が一から教えてくれました。学んだことを生かしてより良い生徒会にしたいと強く思い、生徒会長に立候補し、学校を引っ張っていく機会を与えていただきました。

これらの活動を通して私から伝えたいことがあります。まず一つは「努力」です。「努力」というのは目標を達成するために必要不可欠です。結果がどうであれ、自分はこれだけやってきたという「自信」となるはずです。

もう一つは「感謝」です。私達三年生は我慢することが多かった学年です。しかしたくさんの思い出を作ることができました。それはたくさんの人の支えがあったからです。そして今日このように清々しい気持ち

で卒業の日を迎えることができたのも多くの人の支えがあったからです。その人への思いを今、伝えたいと思います。

教職員の皆様、今まで本当にありがとうございました。先生方がかけてくださった応援の言葉はどんなときでも自分の背中を押してくれました。先生方から教わったことをいかして、いつか先生方が「あの子は自分の教え子なんだ」と胸を張って自慢できるような人になります。

三年生へ。皆と過ごした時間は自分にとってかけがえのない時間でした。一緒になってふざけたり、笑いあった日、喜びを分かちあった日、大切な思い出をありがとう。これからの進路はそれぞれ違うけれど目標に向かって頑張りましょう。

そして家族へ。不器用な自分を最後まで支えてくれてありがとう。生徒会や勉強、野球でうまくいかずに凹んで帰ってきた自分を毎回「大丈夫、次はできるよ」「がんばれ」そう言って励ましてくれたからがんばれました。「成長したね。」と言われるように頑張るので、これからも応援してください。中学三年間、ありがとうございました。

最後になりましたが、新しい環境でも努力を忘れず、感謝の気持ちをもって進んでいくことを誓ってお別れの言葉とさせていただきます。

令和五年三月八日　卒業生代表

前月号の訂正

２月号の書初めの内容に誤りがありました。[redacted]さんを１年生の部銅賞と記載してしまいましたが、正しくは銀賞でした。訂正してお詫び申し上げます。

4月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合もあります。

日	曜	学校行事など	昼食	日	曜	学校行事など	昼食
1	土			16	日		
2	日			17	月		○
3	月	春季休業		18	火	３年生全国学力・学習状況調査	○
4	火	↓		19	水		○
5	水			20	木		○
6	木			21	金		○
7	金	着任式、始業式、入学式	×	22	土		
8	土			23	日		
9	日			24	月		○
10	月	離・退任式	×	25	火		○
11	火	身体計測	○	26	水		○
12	水	学級写真	○	27	木	横浜市学力・学習状況調査	○
13	木		○	28	金	教育活動説明会	○
14	金	授業参観・懇談会、部活動保護者説明会	○	29	土	昭和の日	
15	土			30	日		

○○●○○○●○○○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○●○○○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○●○○

４月の学校カウンセラー（小川みなみ）による相談（水曜日）は４月１２日・１９日・２６日です。

相談予約等は、本校職員または相談室直通電話【（水）のみ３９１－５８９１】まで。

○○●○○○●○○○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○●○○○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○●○○